

核データ国際会議準備委員会第3回会合議事録

日 時 昭和60年10月8日(火) 13:30～17:30
場 所 原研本部第2会議室
出席者 北沢, 瑞慶覧, 吉田(代, 川合), 木村, 秋山, 佐々木(代, 菅原), 水本,
五十嵐 (欠席, 大谷, 石黒)

配布資料 (1) 核データ国際会議準備委員会第2回会合議事録
(2) 1988年核データ国際会議を日本で開催することについて
(3) 討議事項表
(4) 国内組織委員候補表
(5) 国内プログラム委員候補及び国際顧問委員候補表

議 事

I 前回議事録確認

配布資料(1)により確認を行い, 了承された。

II 経過報告

前回の申し合せ及び11月のNEANDC 25回会合を控え, 原研企画室, 国協室, 財務部, 総務部及び科技厅技術振興課, 調査国際協力課, 管理官室に説明を行った。配布資料(2)はその際に用いたものであるが, 配布資料(3)に記したような宿題が出た。また, 第五企画に行つて, 会場や運営のやり方等について意見を聞いた。その主な事項も配布資料(3)に記した。

プログラム委員候補等について郵送により問合せを行い, 数名から返事もらった。

以上の経過を踏まえ, 配布資料(3)の課題について討論を行った。

III 会議の内容について

前回議論を行った内容を更につめることにした。

(1) 会議の名称は

International Conference on Nuclear Data for Science
and Technology

とする。

(2) トピックスについて、前回議事録に記載した項目に追加すべきもの及び修正すべきものなどを検討した。主な議論を以下に挙げる。

(i) spallation neutron source を加える必要はないか。

(ii) astrophysics, fission, polarization など science 系のトピックスが少ないのではないか。

(iii) 「その他の分野における中性子核データ」のような項目を設けて、受皿にしてはどうか。

(iv) 「核反応理論」は狭いので「応用のための核理論」の方が良い。

(v) トピックスの配列順も変えた方が良い。

以上の議論を基にして、各項目の英文名と内容の注釈をつけた表を作ることにした。

科技厅へは核データの説明文と上記の表をつけた資料を提出する。また、会議の意議等については原子力委員会の長計などを参考にし、核データを必要とする分野とそこへの効果、アジア地域で初めて開くことの重要性などを述べ、核データ測定技術の進歩、核データ利用分野の広がりなどを考慮して2年ごとに開く必要性を説くことにした。

VI 国内組織委員、プログラム委員等について。

配布資料(4)、(5)により検討を行った。

(1) 国内組織委員候補について

- 出来るだけ多くの機関を加えるようにする。
- 協賛機関を全部加えてもよいのではないか。
- 核データ活動を行っている所を対象にすべきではないか。
- 動燃事業団は共催ではないか。

○会社への委嘱状は本社宛に出して欲しい。

などの意見と要請があった。

これらを踏まえて、更に整理することになった。

(2) 国内プログラム委員候補について

○トピックスの各項ごとに2名以上は必要である。

○プログラム委員会は実質的には組織運営も担当することになるのではないかと。

○実行グループ 核データセンター室員と少数のメンバーで組織し、scientific secretariate の役をするようにし、プログラム委員会は招待講演者の選定、プログラム作成など、要所を押える役にしてはどうか。などの意見が出た。

組織委員会も含めて、それぞれの役割を明確にした規約の粗案を早く作る必要がある。

なお、実行グループを置くことにし、核データセンター室員以外では、秋山、吉田、瑞慶覧、水本、千葉の各氏を候補に挙げた。

(3) 国際顧問委員候補について

国際プログラム委員会は置かないことにし、必要な相談はすべてこの委員会を相手に行うようにする。

配布資料(5)に追加したい候補者として

- G. Rudstam (Stusvik)
- L. R. Greenwood (ANL)
- H. Denschlag (Mainz)

が挙げられた。

国際顧問委員候補については NEANDC とも相談するが、日本側の案を作るために、各自の案を1週間以内に核データセンターに届けることにした。

V その他

第5企画との打合せのため、会場の規模、配置、必要な機器類、支援体制等の見積りを作ることになり、秋山、水本両氏が担当することを了承した。

次回は12月9日(月) 11:00～

原研本部で開く。